

団体・組織の概要

※太枠内、必須事項。その他は、該当する項目を記載してください。

団体/会社名	特定非営利活動法人八丈島産業育成会		
代表者	宮崎 岩一	担当者	宮崎岩一
所在地	〒 100 -1401 東京都八丈島八丈町大賀郷 3121 番地 1 TEL: 090-4944-2697 FAX:04996-2-2493 E-mail: gqw62939n@drive.ocn.ne.jp		
設立の経緯 ／沿革	八丈島では、ここ数年前から人口の減少が著しく、このままでは人口の減少はとどまらずに過疎化してしまうと危機感を募らせまだこの八丈島の可能性はあると信じそれを具体化するためにはきちんとした組織運営が必要と考え、八丈島の産業の枠にとどまらず各方面の人材を取り組む事で情報の伝達とアイディアを共有することによっての活性化に取り組んだ。		
団体の目的 ／事業概要	この法人は、広く一般市民を対象とし、八丈島の観光、物産等の経済の活性化のための情報発信事業を行い、島全体の経済の発展、観光来島者の増加島の将来を担う人材の育成を図ると共に、新しい形の観光地、救急ケアの体験学習の推進を進め、また、自然環境・景観の維持保全を図ることによって魅力的なまちづくり、地域の活性化の実現に寄与することを目的とする		
活動・事業実績 (企業の場合は 環境に関する 実績を記入)	八丈島のPR、情報提供事業の活動については(平成19年10月12日～14日)八丈島に於て開催された、ハビ`スフェスティバル IN 八丈へのボランティア活動参加。(2006年はフラ・フェスティバル開催) 八丈島観光振興実行委員会の事業である八丈島ものしり検定(第1回・第2回)、めんなわせフォトコンテスト(第1回・第2回)の企画から実際の活動までを手がけた。八丈島のPR・情報提供事業ではトヨタ財団へ企画書を提出しその企画が採用されフラダンスプロジェクトの持続的実践事業化を図り八丈島産業育成の柱を構築する活動を行なった。 また観光に関わる調査、提案事業として経済産業省の委託事業へのコンソーシアムに参加して活動を行なった。 現在の活動としては第3回めんなわせフォトコンテスト平成21年1月31日応募締切(現在調整中)第3回八丈島ものしり検定平成21年3月8日検定試験開催日(現在調整中)「春の八丈島フェア」平成21年3月11日～4月6日しながわ水族館にて開催予定「フリーズアレイメイキングツアー2009 平成21年4月11日～12日実施予定(現在参加者募集中)。		
ホームページ	http://shoden.ddo.jp/~8jo-npo/		
設立年月	平成17年 11月 10日 *認証年月日(法人団体のみ) 平成17年 11月 10日		
資本金/基本財産 (企業・財団)	円	活動事業費/ 売上高(H17)	円
組 織	スタッフ/職員数 名 (内 専従 名) 個人会員 28 名 法人会員 名 その他会員(賛助会員等) 名		

■政策の分野

- ・ 持続可能な地域作り
- ・

団体名：NPO 法人 八丈島産業育成会

担当者名：宮崎 岩一

■政策の手段

- ・ 地域活性化と雇用・人材育成と交流
- ・ 調査研究、技術開発、技術革新・施設等整備・情報の収集・情報の共有化

■キーワード	グリーンニューディール	離島での雇用促進	産業観光の構築	最新テクノロジーの融合	環境モデル地区
--------	-------------	----------	---------	-------------	---------

① 政策の目的

今グリーンニューディール政策に基づいた中、離島であるからこそ出来るのであろう地域活性化・雇用・人材育成となりえる自然エネルギーを活用した事業への転換を図り自ら自立する離島作りを目指したカリキュラムの作成・構築を目指した地域作りに取り組む

② 背景および現状の問題点

100年に1度と言われている今の経済問題は、もっと前から形を変えた状態でこの日本における離島では始まっていたと考えられる。日本は島国であり我が国の中にある離島数は6800以上と言われ、そのほとんどの島々の全てで、過疎化や高齢化・若者の流失により農業・漁業・観光業・公共事業をとりまく主体産業の衰退は著しく、このままの状態を続けていく事は、離島または我が国における将来の危機的状態となる事は容易に想像することができる。それを解決出来るモデル地区としての離島が私達の住む八丈島だと提案できる自然エネルギー環境があるが、残念なことに今現状の政策の中では離島に目は向けられる事は少なく、また従来通りの政策にとどまり先見的な解決方法に至っていない事から、その離島でも現状の維持に対する政策に町や村では追われるばかりであり離島本来の潜在的なエコエネルギーの活用・運用・提案が行われていないことから、地域活性化が進む事が出来ずにある。また今まで離島を支えていた観光の方面も若者の流失により宿泊施設の老朽化・サービスの低下と言った状態が進んでおり観光の分野も目新しい提言もなく観光客の減少もそれに伴う形で進んでいる事でなおの産業衰退が進んでいく事につながり人口の流失に拍車がかかっている。

また今の日本では、各地でエコエネルギーの実験や開発に取り組んでいるのだが、マッチングされた研究や開発と言った実証は少なくコストと人材の育成でそれぞれの課題が多く今1つ新しい成果が得られていない。

③ 政策の概要

エコエネルギー技術の集中化による産業観光とのマッチングにより世界に向けての発信場所となる。八丈島にあるエコエネルギーは地熱発電・太陽光発電・風力発電・海流発電・波浪発電・潮力発電・水力発電・バイオマス発電と言ったエコエネルギーが8種類「8種類のエネルギーと八丈島の八をとりエコ八とする。」も実験実証できる八丈島でありまた環境は厳しい事からどんなところにも対応しうる世界に類をみない実験実証場所であると言える。そしてこの環境を利用し今まで単体での研究開発を行っていたエコエネルギーの、マッチングをはかる事により今まで以上なテクノロジー・新規事業の提案がされその事で八丈島に、研究者・企業の参入が期待されそこには、雇用が伴うことになり地域の活性化が促進される。また他の離島に合うエコを利用したエネルギー政策の構築にも役立ちまた産業観光に繋げることにより、世界中に発信しその事により世界中からの注目を浴びる事で、視察・研究・開発の最先端の場所となる事で、世界環境サミットを提言し開催できる場所に作り上げる事によりなおの雇用が生まれ一層の雇用促進が図られる事によりモデル地区としての評価が上がることにより実際の世界環境サミットへのアピールへとつながっていき開催が現実化出来ることになる。

④ 政策の実施方法と全体の仕組み（必要に応じてフローチャートを用いてください）

1 エコエネルギーへの組織化への取り組み

民間でのプロジェクト共同体設立「GEHP」・行政と民間の協議委員会設立

2 GEHPの役割

八丈島の事業者と島外の事業者・研究者・研究機関との調整

観光産業との連携作業の推進

行政に対しての世界サミットに向けての提言作り

想定できるエコエネルギーへのマッチング事業の促進

新規事業の構築と島外へのエネルギーの輸出へ向けての事業構築・提案

各離島向けのエコビジネスプラン構築・提案

エコハのマッチングされたエコエネルギー資材の構築と研究開発

* {自然エネルギー・地熱・太陽・風力・海流・波浪・潮力・水力・バイオマスの8種類と八丈島の八を取りエコハの名称とする。}

⑤ 政策の実施主体（提携・協力主体があればお書きください）

実地主体NPO法人八丈島産業育成会

提携・協力主体

グローバルエナジー・エヌプロ

⑥ 政策の実施により期待される効果（具体的にお書きください）

日本に置ける離島振興のビジネスモデルとなり、開発されたエコエネルギーのノウハウは有効利用により雇用の促進とCO2の削減につながっていきグリーン電力証書制度などを利用し各自自治体の製品の付加価値を上げると共に、積極的な電力の買取制度の促進をはかりさらなるエコエネルギーの普及をはかる。また離島のエネルギーをエコエネルギーに変換することにより今までかかっていた生活エネルギーコストが下がることにより、生活しやすい島になっていくことで、人口の流失を止める効果が期待されまたエコエネルギーを売ることによる収入の増加により地域の活性化が進むことになる。

世界環境サミットを提言し開催できる場所に作り上げる事によりなおの雇用が生まれ一層の雇用促進が図られる。モデル地区としての評価が上がり、実際の世界環境サミットへのアピールへとつながっていき開催が現実化出来ることになる。島の魅力を発信して、多くの方が島の愛好家になって頂くことで島の多面的な活性化に結び付くきっかけとなり。このような事業は、八丈島にとって地域の振興、経済発展に期待が寄せられるところであります

⑦ その他・特記事項

環境が厳しく八丈島での実験・検証は他の地域よりも良い成果を出すことが出来る。

施設の小型化をはかり各世帯ごとのグリーンエネルギー構想を現実化する。